

会 議 録

| | |
|-----------|--|
| 会 議 の 名 称 | 令和5年第1回藤井寺市保健福祉計画推進協議会・いきいき長寿部会 |
| 開 催 日 時 | 令和5年8月7日（月）午後2時から午後3時半まで |
| 開 催 場 所 | 藤井寺市役所 本庁 8階 801 会議室 |
| 出 席 者 | <p>委 員：部会長 藤本 恭平 副部会長 長畑 多代 委員 福田 浩史 福塚 充 西野 由美</p> <p>事務局：健康福祉部長 村本 匡成 健康福祉部次長 福田 博章 高齢介護課長 村上 敏幸 健康課長 白形 幸子 高齢介護課課長代理 澤多 良明 高齢介護課長代理兼高齢者福祉支援担当チーフ 小井谷 健二 高齢介護課総務担当チーフ 井原 佳奈子 高齢介護課サービス担当チーフ 林 大裕 高齢介護課総務担当 佐藤 美早紀 高齢介護課サービス担当 棟保 暖乃 地域包括支援センター長 石山 直哉 地域包括支援センター係長 漆島 典子 地域包括支援センター 羽根 武志 (株)サーベリサーチセンター大阪事務所 木村 靖子</p> |
| 欠 席 者 | 委員 中西 秀之、委員 明石 マスミ |
| 会 議 の 議 題 | (1) 『第9期藤井寺市いきいき長寿プラン』骨子案について (2) その他 |
| 会 議 資 料 | 第1回藤井寺市保健福祉計画推進協議会「いきいき長寿部会」会議次第 第9期 藤井寺市いきいき長寿プラン骨子案 資料1 第8期計画の取組状況 介護予防啓発冊子 『いきいき笑顔の虎の巻★』 藤井寺市介護予防日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査結果報告書 |

| | |
|-------------------|---|
| | 第9期介護保険事業（支援）計画の基本指針（大臣申告）のポイント（案） |
| 会 議 の 成 立 | 委員7人中5人の出席があり、藤井寺市保健福祉計画推進協議会規則第7条第5項の規定により成立 |
| 傍 聴 者 | 1名 |
| 会 議 録 の 作 成 方 法 | 要点記録 |
| 記 録 内 容 の 確 認 方 法 | 出席した委員の確認を得ている |
| 公 開 ・ 非 公 開 の 別 | 公開 |

審 議 の 内 容

（1）『第9期藤井寺市いきいき長寿プラン』骨子案について

- 事務局より『第9期 藤井寺市いきいき長寿プラン骨子案』に基づいて説明。

【質疑応答】

A委員：アンケート調査の回収率が前回より悪いですが、これはどのような原因があると考えられますか。

部会長：前回は60%を超えていたということですから。前回も今回も対象は全く同じですよ。調査方法も同じですね。

事務局：前回の実施は令和2年の4月から5月で、回収率「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」が63.3%、「在宅介護実態調査」が61.4%となっています。今回はニーズ調査が59.6%、在宅介護実態調査が58.5%です。実施した時期が去年の12月の年末にかけての忙しい時期だったからなのではないかということで推測しております。

A委員：次にアンケートを採られる時は、忙しい時期をずらすとか何か工夫が必要かなとは思っています。

それから骨子案の人口の推計に使用している値は、骨子案の7ページでは住民基本台帳の各年3月末、8ページでは、各年9月末の住民基本台帳の数字を使っていますね。使用しているデータの時点がばらばらなのは、なぜですか？

それから1ページ、第1章の文章中の人口についての記載がかなり前の令和2年です。7ページでは令和4年とか5年のデータが出ていますが、令和2年度の数字が使われているというのは何かありますか。国勢調査の分ですか。

事務局：1ページに記載している実績値については、前回の計画と同様に、5年に1回行われる国勢調査の結果につきお示ししました。これは経年的に見たほうがいいのではないかとということで、住民基本台帳の9月末値の実績に置き換えていきたと考えています。

それから7ページに記載のある人口推計をするにあたり、住民基本台帳の過去5年分の各歳男女別のデータを元に推計しますので、9月値が出るのがこれから先になりますので、3月値を記載しています。これは最終的に9月値に置き換わります。

それと併せて、1ページの人口に関する記載と7ページから9ページに記載している将来推計と整合性を図っていきたいと思っています。

8ページに関して、高齢化率の推移につき最新のものでお示しできるものというのが、総務省が示しております住基台帳人口のデータになります。総務省の住基台帳の場合は各年1月1日となっており、その間というのが出ておらず、他市の事例においても、1月1日値をよく使っており、一般的にこれがよく使われているということで、これを今回は掲載させていただいています。

部会長：骨子案13ページ、アンケートの結果の⑤趣味・生きがいについてです。前回の令和2年は、趣味・生きがいとして一緒の調査だったかと思いますが、今回は趣味と生きがいを分けて調査されていますね。グラフ④から⑧の項目が減っているという指摘ですが、コロナのことも大きいと思います。しかし、今回のアンケート結果を示すグラフでは、趣味と生きがいを分けて記載していて、この2つの項目を足すと前回結果と同じぐらい、むしろ増えているようにも見えます。重複で答えていらっしゃる方もおられるかもしれませんが、これは別個にしたら減っているということではないですね。このグラフは、前回調査の趣味・生きがいとしてひとくくりになっている結果と並べて比較しているのですか？

事務局：前回比較し、社会的参加の項目の回答が低下しているところを示したかったというのがあります。しかし、記載した意図がどんな趣味・生きがいを持っている人が多いのかを示すということであれば、今回調査結果だけ示して参考数値として、前回調査結果を2つ並べて記載するものよいかと思います。市民の皆さんに分かりやすいような視覚的な表現と説明ということで検討させていただければと思います。

B委員：「いけ！ネット」はこの地域独特というか、最初にやられた医師会さんということもありますが、情報共有システムの「藤・ネット」の使用状況は今どうですか。

事務局：「藤・ネット」の使用状況ということですが、コロナ禍で止まっている部分もありますが、現在、藤井寺市と羽曳野市と柏原市で藤井寺市民の患者あるいは介護サービスの利用者として利用されている医療、介護の事業者が使用できるように、この情報共有システムを導入しています。

メンバーについては、今、介護事業者の入れ替わりが激しいので、医師会の事務局のほうに委託させていただいていますが、メンバーの把握をしていただいて、メンバーとして入っていない事業所に関しては「藤・ネット」の利用をはたらきかけていくようにしています。

「藤・ネット」の利用者は、藤井寺市、羽曳野市、柏原市の3市に留まっていますが、今後、松原市であるとか近隣の市で藤井寺市民が患者、利用者として利用

しておられるかかりつけ医や介護事業所に対しても「藤・ネット」加入をはたらきかけていきたいと考えています。

B委員：実際に「藤・ネット」でやりとりをされているのは、187人でしょうか。その介護の仕事をされている方とか医療関係とかと実際にやり取りはあるのですか。

事務局：内容の件数のことをお尋ねということですね。私どものほうでは見られないものですから、件数等が分かるのかも含めて。

B委員：今、確か無料システムを使っていると思います。今、こういうシステムは、だんだん有料化されて無料システムの範囲が狭くなるので、それに対して今後どんどん広げて使おうとするならば有料化の支援が必要ではないでしょうか。今、どのように使っているか分かりませんが、本当にたくさん使われていくのであれば、現在の無料システムのままではちょっと心許ないと思います。ICTの根幹にするなら予算ではないでしょうか。

事務局：一応、今現在使わせていただいているシステムがエンプレスという会社に提供していただいているものですが、無料という話で有料化する予定はないと当初は聞いていました。今、有料サービスも含めてというお話でしたが、無料でいけるところまではいかせていただいて、有料という話に完全に舵を切られるようであれば、他に無料でいけるところを探させていただこうかなと思っております。

部会長：おっしゃるように、「いけ！ネット」そのものが多職種のボランタリーなシステムですので、藤井寺市が、医師会がというものではありません。もともとこの名前の発祥はケアマネのネットワークというかたちで、その辺の垣根を隔てた意見交換がスムーズにできるようにと。そういうことが一番の狙いで。それに対して一人の患者さんに対する情報提供及び意見、そういうのをいろいろなかたちで気さくに話ができればなということです。

ただおっしゃるように、個人情報のことだけではなくて、利用者さん、もしくはメンバーが替わられることもあって、仕組みをしっかりと把握していただいた上で使っていただきたい。間違った使い方をするのはもちろんないですが、実際恐らく実務では、電話で点と点で話をされるケースも多いことは多いです。

なかなか我々のほうとしても、「お医者さんに対する話し掛けというのは敷居が高いように見受けました」と書かれているので、もっと本当にバリアフリーにいろんな話ができるというのを目指していきたいですけどね。

B委員：同じ職種間においても情報共有を「藤・ネット」と同様のシステムを使っていますが、多職種の連携はもっと難しいと思います。

部会長：そういうことです。いろんな話ができる、オンタイムでできるというのが本来のメリットだと思います。おっしゃるように、できて15年くらい。一番先駆けで始めたんですが、個人個人でつながっていらっしゃいますので、そういうところは特化したシステムを使って綿密にやられています。オープンでやるということのもう一つのメリットも大きいんですが、なかなかそれを広く、浅くとは決して言いませんが、それを使っていくことになっていくと、やっぱり制約が垣根

になってくるのは現実ですね。

(2) その他

●特になし

【質疑応答】

事務局：次回のいきいき長寿部会は11月下旬を予定しています。

閉 会

(終)